

《外用薬の種類と使い方 その3》

●坐薬：肛門または膣に挿入して使う薬です。痔や風邪時の解熱、外傷などによる痛みを緩和するために使用します。

肛門または膣に挿入後、徐々に溶けて作用します。

解熱剤、吐き気止め、抗けいれん剤などは全身への作用を、痔への薬は肛門内局所への作用を目的として使用します。

他の外用薬と同様に、使用する前に手を清潔にしておきましょう。

肛門へ使用する場合は、なるべく排便を済ませてから挿入して下さい。

一般的には冷所で保存しますが、種類によっては室温で保存可能なものもあります。

冷たい坐薬をそのまま挿入すると、その刺激により排便を促してしまう場合もあるので、室温くらいになってから使用するか、坐薬の先端を軽く手で温めるとよいでしょう。

(※坐薬の使用方法については、小児 坐剤として別ページでも記載があるので参照して下さい。)

●吸入薬：口から薬剤を吸い込んで使用する薬です。主に喘息発作の予防や治療に使用します。

吸入薬には様々な種類があり、個々の薬で使い方が異なります。

最近では複数の薬剤が配合されているタイプも増えてきました。

- ・エアゾールタイプ (pMDI)

スプレー式で薬が噴射され、吸入することができます。

スプレーを押すと同時に深く吸い込む必要があります。

小児や高齢者で吸う力が弱い場合は、補助器具 (スパーサー) を使うことで、吸入しやすくなります。



- ・ドライパウダータイプ (DPI)

粉末の薬剤を専用の器具を使い吸入します。自分の呼吸のタイミングで薬を吸い込む必要があるため、吸入方法の習得ができる年齢の方に適しています。

- ・ネブライザー (吸入薬)

電動式の機械 (ネブライザー) に液体の薬を入れて、霧状にしたものを吸入します。

自然な呼吸をしている状態で使用するので、乳幼児や高齢者でも確実に吸入できます。



予防で使う薬は、症状が出ていなくても決められた回数での使用が大切です。